DENDOH NATSUKO ANTI SYSTEM
PERFORMANCE #019

電動夏子安置システム#019
錯覚の喜劇三部～《耳》

電動夏子安置システム　第19回公演

笑う通訳

脚本・構成　竹田哲士
演出　高松亮

2008年11月13日（木）～16日（日）

シアターグリーン BASE THEATER

JR・東武・西武・東京メトロ『池袋』駅より徒歩7分

電動夏子安置システムがお送りする、2008年、錯覚の三部作。

「錯覚の喜劇三部」

私が芝居を面白いと思って、この無間地獄のような世界に片足を浸してもう10年になります。
10年間で少しでも面白い芝居を創ろうと、しかも喜劇を創ろうと頭を悩ましてきました。
その結果、キゲキッポイものは多々生み出せたような気がしますが、まだまだ満足いく物は創れませんし、
この先もそれが出来るかどうか分かりません。
創れた時点で芝居をやめることでしょう。
満足のいく喜劇を創る為に、ここ何年かを費やして、喜劇の方法を模索してきました。

まず、人間同士のドラマでなければいけないので、「人間」というものが存在している世界を浮き立たせるため、
「Performen」というシリーズを試しました。
人間というのは、常に世界というものと多かれ少なかれ摩擦をおこして生きているものです。
例えばその摩擦が意図的に大きくされれば、何気ない日常生活がどんなに歪んで、
傍からみたらどんなに滑稽であるか。
登場人物の感情とは一切関係ないシステムを使って、人工的な非日常世界に生じる笑いの方法。

そして自分という存在が、他人の言動の及ぼす因果の積み重ねで成り立っている事を表現した「ジェノルマ」と
いうシリーズ。このやはり作為的な空間の中で、登場人物たちが必死になり、エゴを押し付けあうその真面目さ
に、笑いが生まれるのです。

つまり意図的に人間関係に溝を生み出し、ドラマに摩擦が生じれば笑いが起きる。
上記「意図的に」の部分が、当劇団の作品にたびたび設定されている「不条理なルール」のことです。
物語そっちのけのこの方法で、創る側はもちろん、観ている側の脳を疲弊させるような作品を提供してきました。

そして10年目の暮れに、これらの方法を用いて「喜劇」というものに改めて取り組んでみようと思うのです。
今回、「錯覚」という現象をモチーフに３作品をお送りするわけですが、形として三部という構成になりました。
この３という数字には意味はありませんが、私が興味を持っていて、「Performen」シリーズでもたびたびルール
として使われている代表的な錯覚を使用します。

「錯覚」とはあくまで自己の中での完結した感覚です。
だからこそ、それ以外の他の世界と摩擦をおこしやすく、笑いの生まれる隙が生じます。
そして３作に共通して言えることは、自分が認識している世界が全てではなく、必ず、そうではない
別の世界との狭間にいて、そのどちらかに自分が属していて他方を「異」と思って暮らしてしまっている、
まさに錯覚のお話です。

最後に、悲劇とは、

「どうにもならない状況をどうにかしようと必死になった結果、どうにもならなかった人達のドラマ」

であり、どうにもならない状況とは、

「不条理なルール」

の事であり。
そして喜劇とは、

「笑える悲劇」

の事だと考えるのです。

電動夏子安置システム
主宰　竹田哲士

ご挨拶

本日はご来場頂きまして誠にありがとうございます。

錯覚の喜劇第二弾は耳のお話です。言い換えれば言葉の話です。
私は幼少の頃から外国人が多い街に住んでいました。小学生の時はクラスに留学生や帰国子女がいるのが当たり前な生活で、自分のクラスには確かイギリスからの男の子が来ていました。彼は日本の給食に全く馴染めないので弁当持参です。ライ麦パンにハム等を挟んだサンドイッチと野菜スティックというちょいとオシャレなメニューがお気に入り。
ところが我々は目の前で生人参をかじる彼をからかう度量の狭い子供だったので、全く打ち解ける事が出来ませんでした。

最大の原因は言葉の壁だと思います。
彼は日本語を覚えなかったし、僕らも英語は未知の領域でした。
互いに聞く事は出来ても理解する事は有り得なかったのです。

今回の登場人物は理解しようとする努力は怠りません。当たってようが間違ってようが、都合が良かろうが悪かろうが、理解しようとする姿勢は崩さない。
例えそれが一定のルールによって歪められたものであっても。
そんな努力のかけら達が笑いを産むと思うのです。

故に今回はいつも以上に耳をすまし、言葉のやりとりを楽しんで頂けたらと思います。

高松亮（演出）

「笑う通訳」…都合のいい耳を持った人達のまどろっこしいく、そこそこの緊迫感ある会話劇。

日本人と外国人では動物の鳴き声の聞こえ方が違うようです。もしかしたら聞こえ方は一緒なのかもしれませんが、言語にする段階でかわってくるのかもしれませんけど。

スパルタ人は外国人のことをバルバロイと称しました。しゃべってる言葉が彼らの耳を通すと「ばるばろい」と聞こえたのが理由だそうです。違ってたらすいません。

スパルタ人のことは知りませんが、身の回りでもよく聞き間違いをする人のメカニズムは、耳が悪いというだけでなく、自分の頭の中に適当な単語群をもっていて、受け取った言葉を自分の都合のいいように置換していくのではないでしょうか。

以前、我が家にホームステイにきたフィンランド人も陥ったであろう、「耳の錯覚」のモチーフ。

竹田哲士（脚本・構成）

相澤 / Nakaya.A （加藤敦）

通訳。相澤チームのリーダー。
冷静沈着で人望がある。

【役者よりコメント】
毎度電動夏子安置システムご観劇の皆様、お邪魔します。ホチキスから加藤です。

今回は耳の錯覚がテーマだそうで。
聞き間違いなんてのは日常にもある事で、常日頃ボソボソと陰湿なトーンで喋る自分にとってはそれはもう日常茶飯事とはまさにこの事を言うのだなという日々です。
会話が電話口なんかになろうものなら、自分のそれはもう日本語に非ず。声に非ず。
あえて例えるならば宇宙な訳です。
未知との遭遇な訳です。
耳の錯覚からなる未知との遭遇。それを聴き取り難いとするか、貴重な経験とするか…。
「笑う通訳」は是非後者であって頂きたい今日この頃な訳でした。

【今後の予定】
ホチキスvol.23『いらない里』
【期間】2009年7月
【お問い合わせ】hotchkiss@pop21.odn.ne.jp

笠原 / Chiaki.K（阿部恭子）

相澤チーム通訳。
お金に汚く、感情が出やすい。

【役者よりコメント】
笠原さんの趣味は貯金です。
お金がとっても好きなので10円たりとも人にあげたくありません。

でも、結構いいところもあります。
みんなが疲れているときはいち早くみんなの分のコーヒーを入れてあげたりします（コーヒーは会社の備品で只だから。）
そして誰かが凹んでるときは意外にも素敵な言葉で励ましてあげたりします（だって言葉は只だから。）

そんな笠原さんはかつて相澤班長に本気で恋していました。でも今は無理だと察して諦めました。そんなちょっとホロ苦い想いをかかえた女子なのです。

と、いう本編には全然関わってこない裏設定を考えるのが私の趣味です。楽しいな～。

【今後の予定】
多少婦人vol.7『あひ』
【期間】2009年1月21日（水）～25日（日）
【劇場】下北沢OFF・OFFシアター
【お問い合わせ】
tasyouhujinn1961@yahoo.co.jp
http://www.tashoufujin.com/index.html

小松 / Hiromi.K（道井良樹）

相澤チーム通訳。
短絡的で押しが強い。

【役者よりコメント】
11月ですね。
いやぁ～、なんでしょうか。ハッピーな月なんですかね。
この11月は結婚式が3回あるんですよ。うち2回は、この『笑う通訳』の稽古期間中。
そして来週も式に行ってまいります。
いやぁ～、感動しますよね。酔っぱらいますよね。こちらも幸せ気分に浸っちゃうよね。
電動夏子メンバーで最初の寿はどなたになる事やら。
果たして式に劇団員は呼ばれるのか！？

冬も着々と迫ってきています。
いやぁ～、毎年毎年、確実に紅白歌合戦の間隔が短くなっている感覚がします。
この前も11月を過ごしたばっかりなのに。
来年はいよいよワタクシ道井も30歳を迎えます。
ちょっとドキドキ。ちょっと楽しみ。
なった際には、まわりからチヤホヤされるんでしょうな。
いや、違うか。チヤホヤではないか。イジられるのか。
「いやぁ～、歳の事は言わないで」とか言うんでしょうか。

そんな訳で、今回はイヤーの錯覚のお話です。

【今後の予定】
電動夏子安置システム 本公演 出演
2008年12月『そのどちらかは、笑わない。』
2009年 5月『Performen 4 （仮）』
来春公開【旭山動物園物語】（マキノ雅彦監督）・出演

【役者よりメッセージ】
耳の錯覚といえば、ふくらはぎを、ふくろはぎ、今だに、どちらが
正しいのかわかりません。
でも、自分はずっと、ふくろはぎと言ってました。
でも、誰にも突っ込まれず、この歳になりました…
言葉って不便なものですね。誤解を生んだり恥ずかしいめに
あったり、今回はそんな話しだと思います。

染谷 / Ken.S（斉藤きこり）

通訳。染谷チームのリーダー。
いい加減な人情派。通訳の腕は悪い。

【役者よりメッセージ】
音とか言葉というのは不思議なものですね。
空耳アワーを見るといつもそう思います。

小さい頃道を歩いていて、良い香りのする花があったので、母に名前を聞いたら
「ジンチョウゲよ」と言われ、何故か卑猥なものをイメージしてしまい、それ以降
思い出せなくても聞けなくなってしまいました。

空耳アワーの見すぎかしら…？沈丁花、かわいいお花なんですけどね。

電動夏子本公演、初参加の松本寛子です。よろしくお願いします。

【今後の予定】
東京アランセーズ
別役実作『不思議の国のアリスの帽子屋さんのお茶会』＆イヨネスコ作『ごあいさつ』
【期間】2009年2月6日（金）～8日（日）
【劇場】大塚萬劇場
【お問い合わせ】boushiya_info@yahoo.co.jp

本郷 / Yumi.H（松本寛子）

染谷チーム通訳。
裏表が激しい。通訳として欠点が多い。

【役者よりメッセージ】
ダムダム弾団という劇団から来ました。添野豪です。
電動夏子安置システムさんに初参加致します。よろしくお願いします。

耳の錯覚ですか？
えっと昔、学生の頃にですね、先生が「そうゆうのが、ダメなんだよ！！」って
言われると「添野がダメなんだよ！！」って聞こえて、いつもドキッとしてました。
自分の母親は、カップ焼きそばの「ペヤング」の事をいつも「ペアリング」って言います。
あっ錯覚じゃないですね……。

本日はお忙しい中、御来場ありがとうございます。

【今後の予定】
トツゲキ倶楽部（サイドB）『ゆれるおもひで』
【期間】2008年12月19日（金）～12月23日（火・祝）
【劇場】銀座小劇場
【お問い合わせ】totsugekiclub@ezweb.ne.jp

水野 / Keiichi.M（添野豪）

染谷チーム通訳。
気の良い空想家。

長尾 / Yasumasa.N（岩田裕耳）

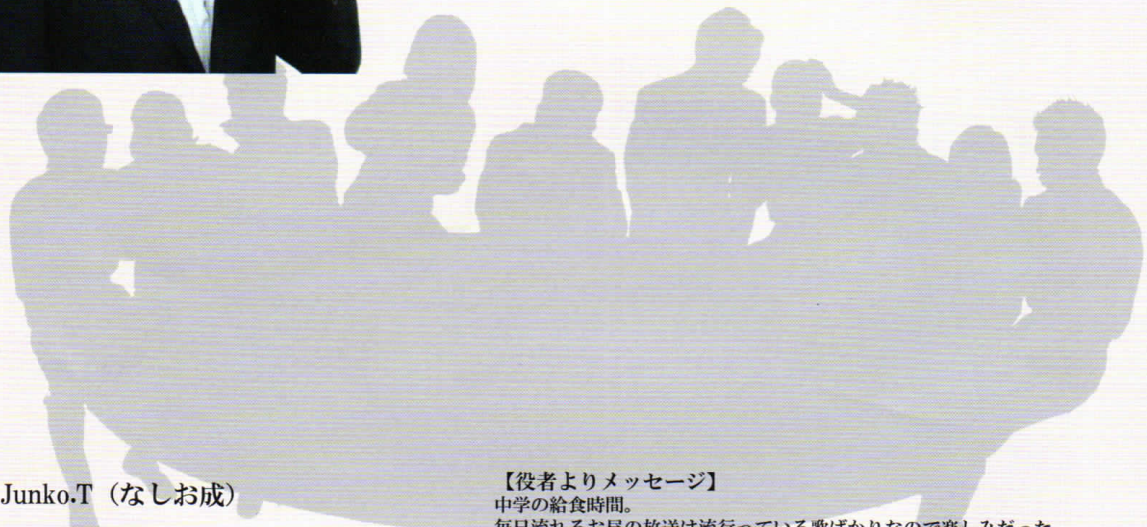
外務省官僚。
最近欧州局から左遷されて来た。

【役者よりメッセージ】
小学校低学年から中学生になるまで英語の学習塾に通っていた。
「岩田くんの声は英語を発音するのに向いている声だね。将来は通訳にでもなるといい。」
中学校の英語の授業の時に先生にそう言われた。
はたして両親や恩師は僕が国際社会で活躍する姿を思い描いていたのかどうか。

多くの或いは僅かばかりの期待を裏切って何故だか今舞台のうえにいますが何か？

今日此処に来てくれたことに感謝します。

【今後の予定】
電動夏子安置システム 本公演 出演
2008年12月『そのどちらかは、笑わない。』
2009年 5月『Performen 4 （仮）』



鶴田 / Junko.T（なしお成）

外務省官僚。
仕事一筋のキャリアウーマン。

【役者よりメッセージ】
中学の給食時間。
毎日流れるお昼の放送は流行っている歌ばかりなので楽しみだった。
でもその日はクラスメート達のはしゃぐ声がうるさく、なっているはずの音楽がよく聞こえない。
というか隣の机で話しているクラスメートの声も途切れがちだ。
だから私はクラスで一番のモテ男子に聞いてみた。

「これ誰の歌？」

答えるモテ男子。

「ホタテとモヤシ」

「？・・・ふーん・・。」

数日後、布袋寅泰の存在を知ったあの日のなしおでした。

【今後の予定】
電動夏子安置システム 本公演 出演
2008年12月『そのどちらかは、笑わない。』
2009年 5月『Performen 4 （仮）』

【役者よりメッセージ】
ムン・ソックホ。

自称チャン・ドンゴン似のバイト仲間ムンさん。
くそ暇なこのカフェで約一年間、私はムンさんと日韓友好をはかっていた。

ミヤコさん、キンタマ知ってマス？
・・・・・・・・錯覚か
キンタマ超面白いんデス
・・・・・・錯覚じゃねぇ
ムンさんムンさんお客さんいるからしーーーーーー。
いなす私にかまわずムンさんは銃を打ちまくる。

キンタマはねぇ、すごいんデス。キンタマはねぇアニメです。キンタマはねぇ6時からです。

私の耳がおかしいのかムンさんがおかしいのか。とにもかくにも「キンタマ問答」でテンションが上がりまくった一日でした。

ってこれ書いていたらムンさんから今電話きたぜ！
韓国から！！

錯覚じゃないの。

【今後の予定】
電動夏子安置システム 本公演 出演
2008年12月『そのどちらかは、笑わない。』
2009年 5月『Performen 4 （仮）』

船山 / Sae.H（渡辺美弥子）

警視庁捜査一課の刑事。
キオソでの殺人事件を追っている。

【役者よりメッセージ】
「笑う通訳」に御来場の皆様、劇団ボスカレの小笠原です。
今公演は耳の錯覚だそうです、なんだか空耳アワーを思い出してしまいますね。でもそれはあながち間違いじゃないかも知れないですよ。だってタモリ倶楽部面白いんですもの。くだらないけど面白い。これ、誰かの台詞ですね。「笑いの大学」で役所広司が叫んでましたね。果たして「笑う通訳」はそんなお話なのか。通訳さんが大爆笑してるだけの話ではないのか。
全然関係ないですが、これを書いてる最中にケンタッキーの臭いがしてきたんですけど、誰も食べてないんです。小笠原は鼻の錯覚に陥ってます。そして色んな事に耳を塞いで生きています。でも、皆様は耳の穴かっぽじってご覧下さい。
それでは現場より小笠原がお伝えしました。

【今後の予定】
劇団ボスカレ『タイトル未定』
【期間】2009年2月11日(水)～17日(火)
【劇場】シアターグリーン BASETHEATER
【お問い合わせ】http://bosukare.com/

松縄 / Tatsuya.M（小笠原佳秀）

警視庁のキャリア組。
日本でのウビリク皇太子失踪事件を追っている。

DENDOH NATSUKO ANTI SYSTEM PERFORMANCE #019

電動夏子安置システム#019
錯覚の喜劇三部～《耳》

笑う通訳

2008年11月13日(木)～16日(日)

脚本・構成　竹田哲士
演出　高松亮

PERFORMANCE
渡辺美弥子　道井良樹　なしお成　岩田裕耳（電動夏子安置システム）
阿部恭子（多少婦人）　小笠原佳秀（ポスカレ）
加藤敦（ホチキス）　添野豪（ダムダム弾団）
斉藤きこり　松本寛子

STAGE DESIGN
■企画製作：村上朋弘（オフィスFLIP-TOP）
■音　楽：榊原正吾（オフィスFLIP-TOP）
■衣　裳：サワダミナミ
■映像撮影：唐沢真史
■舞台監督：酒巻未由来（PACIFIC ART CENTER）
■音　響：古場田良子（オフィスFLIP-TOP）
■小 道 具：米倉由美・オバラック
■制　作：村上朋弘・酒井智代（オフィスFLIP-TOP）
■照　明：たなか一絵
■宣伝美術：煽動屋企画
■写真撮影：荒多恵子

SPECIAL THANKS
明治大学演劇研究部　多少婦人　柿喰う客　ポスカレ ホチキス　ダムダム弾団
上田理紗子　清水阿弥　川崎美波　小林裕明

電動夏子安置システム　公演

視覚を疑え。
聴覚を疑え。
その貴方の感じるものは、真実か？

シアターグリーン
BASE THEATER
JR・東武・西武・東京メトロ『池袋』駅より徒歩7分

DENDOH NATSUKO DNA SYSTEM
電動夏子安置システム
http://www.dna-system.com
fliptop@dna-system.com